

ミニトマト「太陽の瞳」のブランド化と生産・収益の向上

しんひだかちょう
【北海道新ひだか町】

【生産者の声】



ミニトマトのハウス
周りに暗渠排水の整備
を行い湿害被害が解消。
収量が1割アップし
ました。

新規就農されたSさん

【取組地域の概要】

- 位置
北海道 新ひだか町(過疎地域等)



- 主要作物
・牧草、水稻、ミニトマト等

- 主な支援施策
 - ・道営畑地帯総合整備事業(S48～S63)
 - ・国営直轄明渠排水事業(H10～H14)
 - ・道営水利施設整備事業(H26～H30)
 - ・農業基盤整備促進事業(H26～H30)
 - ・鳥獣害防止総合対策

基盤

排水性の改善により施設野菜の生産が拡大

暗渠排水、排水路等の整備により、乾田化が促進され
施設野菜(ミニトマト、ほうれん草)の作付けが拡大。
湿害が低減されたことから**作物の収量・品質が向上。**



基盤整備

(S48年～S63年)
(H10年～H30年)

【整備前】

○排水性の悪い土壌条件のため 過湿状態であり、高収益作物導入の支障となっていた。
大雨時には畑が冠水し、**農作物の収量・品質低下の要因**となっていた。



化学肥料を低減したミニトマト「太陽の瞳」

- 軽種馬生産の副産物である**堆肥を活用**した土づくりを実践。部会・普及センター・JAが連携し**巡回指導**や**土壌診断に基づく施肥設計**で**品質向上**に努めている。
- 全ミニトマト部会員が**エコファーマー**を取得し安全・安心のおいしいトマトを生産。



生産現場

大型選果機を導入した共同選果体制

- 大型選果機**により、**品質及び規格を統一化**し、選果から出荷までを**効率化**。
- 道内はもとより、**首都圏や中部、関西方面へ出荷**。道外への出荷は予冷コンテナ・トラックを使用し、**鮮度を保持**。



加工・流通

農業振興対策協議会による担い手対策

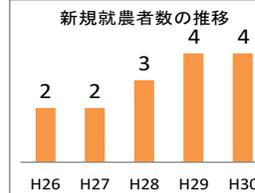
- 営農指導、研修費用や就農後の多様な補助金などのサポートの充実により、**H26～30まで15組が新規就農。**



M夫妻 (H29.4月新規就農)

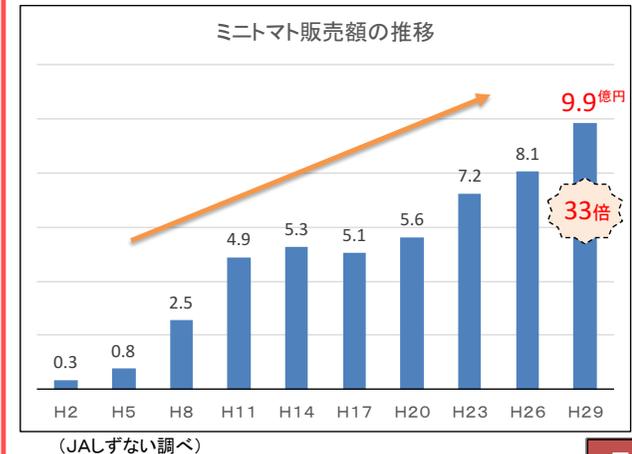


S夫妻 (H29.4月新規就農)



ブランド力向上によるミニトマト販売額の増加

- JA静内そ菜振興会ミニトマト部会が中心となり、ミニトマト「**太陽の瞳**」のブランド化。
- 基盤整備や担い手対策等により、ミニトマトの**作付面積が拡大し、販売額も増加**。
- 水稻や酪農・軽種馬の経営から、**高収益作物への転換、経営の複合化にミニトマト**を取り組むことにより**所得の向上が図られた**。
- 所得・規模拡大により多くの人手を必要とする収穫作業等で主婦層を中心としたパート**労働者の雇用機会が増大**。



【生産者の声】

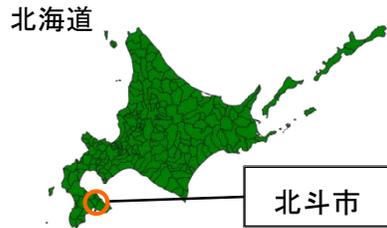


大区画化で作業時間が短縮したので高収益作物の生産に力を注ぐことが出来ました。
暗渠の整備後に立てたハウスでは、湿害を回避できました。

受益者でトマトを生産する澤田さん

【取組地域の概要】

○位置
北海道 北斗市



○主要作物
・米、大豆、長ネギ、トマト、ほうれん草等

○主な支援施策
・国営農業用水再編対策事業 (H18～H28)
・農地整備事業(経営体育成型) (H6～H31)
・農業基盤整備促進事業 (H24)

基盤

大区画化による農作業の合理化・効率化

農地整備事業による**大区画化**（整備前28a→整備後90a）で、**農作業の合理化・効率化**が図られ、**収益性の高い施設・露地野菜等への作業労力投下が可能**。また、排水整備により**収量・品質も向上**。

・整備前～不整形で狭小なほ場



・整備後～大区画化、汎用化



主な作付け品種
りんか、れいか



基盤整備

(H6年～現在)

【整備前】

地域では昭和50年代後半から、稲作との複合経営として、高い収益性が見込めるトマトを導入。

しかし、ほ場は**未整備で不整形**。用排水路や耕作道も未整備で**農作業効率が悪く、規模拡大、高収益作物の導入に支障**となっていた。

○白川地区整備前



○白川地区整備後



北海道を代表するトマト産地

生産現場

○**農業所得向上のため施設園芸を強化し、高収益作物であるトマトの作付けを推進**。道内有数の産地を形成。

○道南特有の温暖な気候を活かし、**促成栽培から抑制栽培へのリレー栽培**により、5月から11月までの**長期リレー出荷が可能**。統一した品質確保と安定ロット販売で消費地から高い評価。



複合経営の推進

農産物直売所を活用した取組

加工・流通

○**農産物直売所「あぐりへい屋」**でトマトを直売。様々な加工品も販売している。

○果汁100%「**とまじゅ〜**」は20年以上の実績。限定販売「**トマトカレー**」にも使用。

○「**ゆいっこソフトトマト味**」は甘みと爽やかな酸味で人気。

○「**トマトシェイク**」もトマトの苦手な人に優しいクリーミーな味わい。



品質向上と生産量増加

○トマトは、JA新函館大野基幹支店において、長ネギと並ぶ**主力品目**。地域振興作物で、複合経営や青果複数品目経営等の**所得向上対策の柱**となっている。

○秀優品率向上のため、排水対策・連作障害対策・栽培管理強化・水田所得対策等により**農業所得20%拡大を目指している**。

北斗市のトマト生産量の推移 (ton)



【出典：渡島総合振興局 野菜作付調査】

・あぐりへい屋



・トマトカレー



高収益作物「さやえんどう」の安定生産による所得の向上

【生産者の声】



良い作物を収穫するには排水路と暗渠排水の整備は絶対必要です。

さやえんどう農家のKさん

基盤整備による生産性向上及び品質の確保

区画拡大、暗渠排水、心土破碎等の農地基盤を整備することにより、**農作業効率の向上**が図られるとともに、**排水改良により「さやえんどう」の立ち枯れ等の解消。**

基盤



排水改良されたほ場での作付



大区画化

基盤整備

(H9年～現在)

【整備前】

本地域は**排水不良**により町の特産品である「さやえんどう」の生育障害の発生や**区画が不整形で狭小**のため**農作業の効率が悪く**、営農の課題となっていた。



不整形で狭小な区画



排水不良による立枯れ

【取組地域の概要】

○位置

北海道 上ノ国町(山村振興)

北海道



天の川地区 他

○主要作物

・水稲、さやえんどう、トマト、ばれいしょ、大小豆、アスパラ、さやいんげん、にら、ブロッコリー等

○主な支援施策

- ・農村活性化住環境整備事業(H9～H15)
- ・中山間農地防災事業(H9～H16)
- ・中山間地域総合整備事業(H14～H18)
- ・農地整備事業(経営体育成型)(H27～H36)
- ・農地整備事業(通作条件整備)(H26～H31)
- ・中山間ふるさと・水と土保全対策事業(H30～H32)

○町の支援施策

・農業機械等導入支援事業及び、ほ場改良事業等

北海道トップクラスの産地を形成

生産現場

- さやえんどうはS56年に本格的栽培が始まり、H29年では**約14.5ha**で栽培されており、**北海道内でも有数の産地**となっている。
- JAと町、普及センターが連携し**生育調査、技術指導**を実施。

・市場関係者からも高評価



首都圏の夏場の需要を支える重要産地

加工・流通

- 主な出荷先は札幌・関西・名古屋・東京方面の市場。7～8月の**東京都中央卸売市場**での取扱量は**北海道産が第1位**(H28)。
- 町の支援による野菜集出荷施設予冷設備の整備により**更なる高品質化**を図っている。



野菜集出荷施設

生産性向上を図るための研修会の実施

担い手

- 農地の排水対策、区画拡大や農業機械の合理化等による**作業効率の向上**に取り組み、**担い手の確保**を図るための研修会を開催。



研修会の様子

排水対策などにより「さやえんどう」の生産性向上

- 排水改良等の基盤整備により、**さやえんどうの安定的な生産が可能**となり、戸当り生産額はH23年と比べてH29年時点で**約1.6倍に増加**。
- 市場関係者からも「**品質が良く信頼できる**」と高評。
- 道の駅「上ノ国もんじゅ」の特産品コーナーで販売するとともに、「**上ノ国絹さや活用料理集**」を町HPで公表し、**地産地消を促進**。

■高収益な「さやえんどう」

作物	面積	出荷額	ha当たり
さやえんどう	14.5ha	約1億円	約700万円
米	246.0ha	約2億円	約80万円

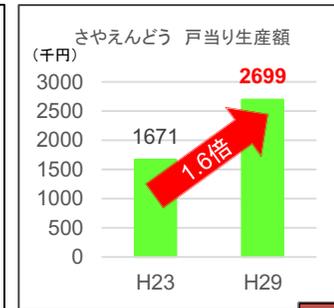
出典:町資料(29年度 上ノ国町産出額)



道の駅で販売



(出典:上ノ国町資料)



(出典:上ノ国町資料)

【生産者の声】



作付けの殆どはニンニクですが、排水性が重要なので、基盤整備に期待しています。

H28年に新規就農したNさん夫婦

基盤

基盤整備による余剰労力の創出と野菜の安定生産

担い手への農地集約や大区画化などにより、**余剰労力が創出**されるとともに、水田汎用化で**湿害も解消**され、玉ねぎや馬鈴薯等の**高収益作物の安定生産**が実現し、ニンニクなど**新規作物が導入**された。



玉ねぎ



にんにく

基盤整備

(H19年～現在)

【整備前】

地域は粘性土や泥炭土などの**特殊土壌が広く分布**しており、排水不良による**湛水で高収益作物の安定生産に支障**をきたしていた。



玉ねぎ湛水状況

【取組地域の概要】

- 位置
北海道 上富良野町



東中南地区 他

- 主要作物
・水稲、小麦、大豆、馬鈴薯、玉ねぎ、にんじん、南瓜、スイートコーン 等

- 主な支援施策
・道営経営体育成基盤整備事業(H19～)
・道営かんがい排水事業(H22～H26)
・道営農地整備事業(通作条件整備)(H27～)
・中山間地域等直接支払交付金(H23～)

生産現場

新たな収穫体系に対応した技術指導

- 労働力不足の中、玉ねぎ栽培で更なる省力化を図るため、**茎葉付きでの省力的なピッカー収穫へ移行**。
- 関係機関が一体となり、**技術指導**や**マニュアル作成**、**機械導入を推進**。



ハーベスター収穫からピッカー収穫

加工・流通

玉ねぎ茎葉処理施設の増設によるコスト縮減

- JAは**玉葱茎葉処理施設を増設**することで、**集出荷コストを削減**し、産地競争力を向上。
- 時間の創出により、**にんじんやミニトマトのジュース等の加工品を開発**。また、生産者が自ら農産物を販売する**軽トラ市を開催**。



玉葱茎葉処理施設

余剰労力を活用した各取組で所得が向上

- 基盤整備により農作業の省力化とともに**収量・品質及び生産性が向上**。
- 余剰労力を活用し、**6次産業化**や**ファームレストラン**、**軽トラ市の開催**などに取り組むとともに、**町全体で集落協定を締結**し、**農産物の直売**や**加工施設の整備によるトマトジュース等を製造・販売**し所得が向上。



上富良野のおいしいセット

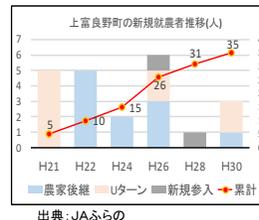


軽トラ市

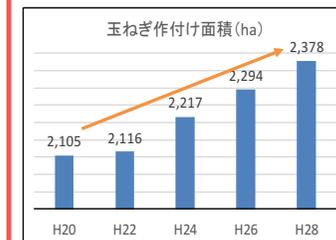
担い手

担い手確保のため新たな支援事業を創設

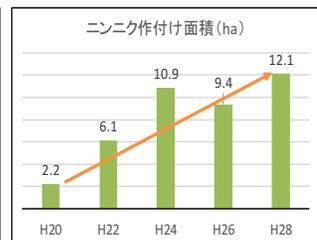
- 円滑な新規就農や農業後継者の育成を図るため、**住居**や**研修**の**受入などを支援**。
- 新規就農者等に対し、高収益作物の**新規導入のため、施設導入**や**整備費などを支援**。



出典:JAふらの



出典:JAふらの



出典:JAふらの

水田大区画化を契機とした園芸作物の生産拡大

【生産者の声】



でんすけすいか
が全国的な知名度
を得られたのも、
ほ場整備で農作業が
軽減されたことが
きっかけです！

でんすけすいかを生産しているFさん

大区画化に伴う省力化による園芸作物の生産拡大

ほ場の大区画化により作業効率が上がり、労働力に余裕が生まれたことから、高収益な園芸作物への労力投下が可能となり、複合経営が促進した。

基盤



「田」を「助」ける転作の取組で生まれた「でんすけすいか」



整備後

【整備前】

高収益作物への生産拡大意欲が有りながらも、小区画ほ場のため作業効率が悪く、労働力に限界があるため、生産拡大には至らなかった。

基盤整備

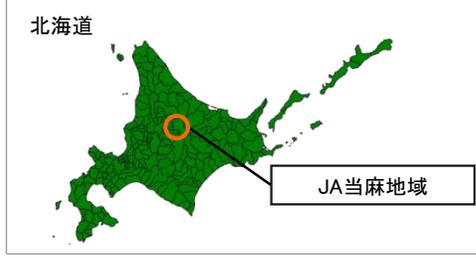
(S49～現在)



整備前

【取組地域の概要】

○位置
北海道当麻町(過疎地域)



JA当麻地域

- 主要作物
水稲 キュウリ・トマト・スイカ・花卉
- 主な支援施策
道営ほ場整備事業(S49～S63)
道営農村総合整備事業(H7～H16)
道営中山間地域総合整備事業(H11～H14)
道営農地整備事業(経営体育成型)(H24～)

生産現場

生産者一丸となった品質向上への取り組み

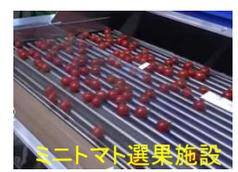
- 道内有数の米産地でありながら長年、野菜や花卉の生産にも取り組み、「でんすけすいか」のブランド化に成功。
- 生産農家で組織する当麻町そ菜研究会が厳しい栽培基準を定め、生産者一丸となった生産体系で高品質な作物を供給。



糖度11度以上を保証

選果施設の新設と直売所の開設

- スイカ・キュウリ・花卉に続き、H29にミニトマト選果施設を新設。国内初の高性能選別機を導入し増産体制を強化。
- とうま道の駅にて、H29に野菜・花卉直売所をオープン。
- トマトジュース「ぎゅーっとトマト」は、H28に日本唯一のトマトジュースでのモンドセレクション最高金賞受賞。 出典: JA当麻HP



ミニトマト選果施設



野菜・花卉直売所



「ぎゅーっとトマト」

園芸作物販売額の飛躍的な増加

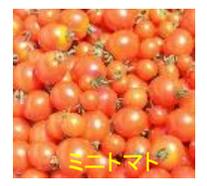
- 園芸作物主要3品(キュウリ・ミニトマト・でんすけすいか)の販売額がH29年に過去最高。特に飛躍的に販売額が増加しているミニトマトは、でんすけすいかに続くブランド化を目指している。
- スイカの王様「でんすけすいか」は贈答用としても大人気。東京伊勢丹などで店頭販売されている。



でんすけすいか

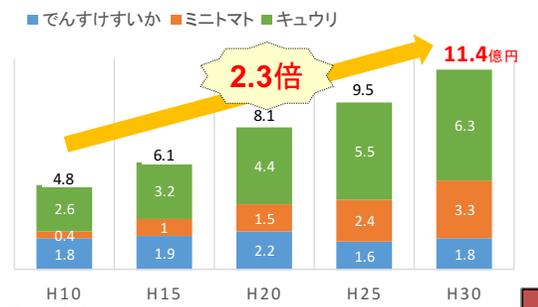


キュウリ



ミニトマト

当麻町園芸作物主要3品 販売額



加工・流通

【生産者の声】



圃場の大区画化により作業時間が3割程度減りました。

水稻・畑作複合経営のHさん

【取組地域の概要】

○位置
北海道 美深町
(過疎、山村、特豪ほか)



○主要作物
・もち米、小麦、かぼちゃ、牧草 等

○主な支援施策

- ・道営土地改良総合整備事業(H9~H14)
- ・道営畑地帯総合整備事業(H16~H17)
- ・道営農地整備事業(H26~H30)
- ・道営中山間総合整備事業(H26~H33) ほか

基盤

農地の大区画化・汎用化による余剰労力の創出

水田の大区画化及び汎用化により、**大型機械の導入が可能**となり、高収益作物である「**かぼちゃ**」の生産が拡大した。

・大区画化されたほ場



・大区画ほ場でのかぼちゃの生産



・かぼちゃの収穫



基盤整備

(H9年~)

【整備前】

狭小な圃場(約30a)で大型機械の導入が進まず、**効率的な営農に支障**をきたしていたことから**高収益作物の生産拡大に支障**を来していた。



生産現場

耕畜連携ときめ細やかな生産管理による品質向上

- 町は**耕畜連携**を進めており、**JAが製造した堆肥**を活用し、有機質を利用した**環境にやさしい土づくり**を実践。
- **日本最北の野菜産地**で寒暖差が大きいことや**収穫するまで葉を管理**することで、甘味や風味を最大限に引き出すことで、**高糖度のおいしいかぼちゃ**の生産を実現。
(通常のかぼちゃは糖度10度前後)



加工・流通

定温貯蔵施設の整備による販売期間の長期化

- JAは**定温貯蔵施設**を建設し出荷量を調整、均等化することで**出荷時期の延長**を可能とした。これにより、関東方面との**高値での取引を実現**した。
- 美深産のかぼちゃと小麦を使用したスティックタルト「**ピウカポッチャ**」。発売当初**4ヶ月で2万本を売り上げた**美深町の特産品。

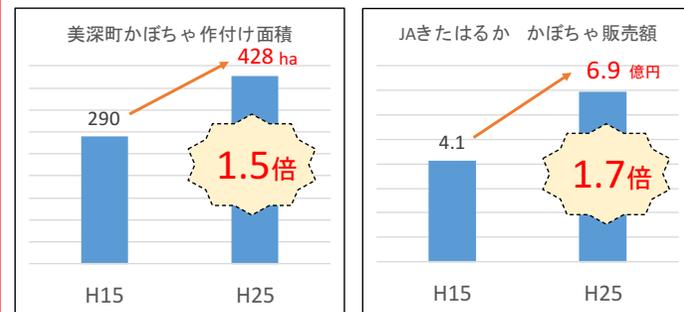


効率的な営農の実現による収益力の向上

- 基盤整備を契機として、**効率的な営農が実現**したことにより、かぼちゃの生産が拡大。
- H29年度は総出荷量5,000tのうち、関東方面への出荷実績は2,300tで、**実に46%が高価格市場への出荷**。
- 「かぼちゃ」を使った**特産品開発**により、さらなる**収益力向上**につなげている。



「美深」美深産のかぼちゃともち米を使用したかぼちゃどぶろく。



(農林水産統計、JA北はるか聞き取りによる)

【生産者の声】

基盤整備により法人化が進み高収益作物の生産を増やすことができました。



基盤

基盤整備による作業効率の向上と高収益作物等の導入促進

区画整理や暗渠排水を契機とした**大区画化**及び**排水改善**により、**農作業の効率が向上**したことから**高収益作物(メロン、ミニトマト等)の導入が促進**。



基盤整備

(S47年～H25年)

【整備前】

不整形で狭小なほ場(平均区画30a程度)が多いため作業効率が悪く、また、**排水不良となる土壌が広範囲に分布**するため、作物の**安定生産の支障**となっていた。



【取組地域の概要】

○位置

北海道 苫前町



○主要作物

・水稲、小麦、スイートコーン、かぼちゃ、メロン、ミニトマト 等

○主な支援施策

- ・道営ほ場整備・土地総事業 (S47～H16)
- ・道営畑総事業 (H11～H16)
- ・道営中山間総合整備事業 (H21～H25)
- ・道営畑かんモデル事業 (H28～)
- ・多面的機能支払い交付金 (H27～)

生産現場

水稲・野菜の複合経営確立へ向けた取組

- 水稲生産にあたり「**とままえ専用有機質肥料225**」による**施肥管理**により品質向上を図っている。
- 畑かんモデル事業**により、高収益作物(スイートコーン、かぼちゃ等)の試験かん水を開始し、**更なる高品質化・安定生産の確立**を目指している。

加工・流通

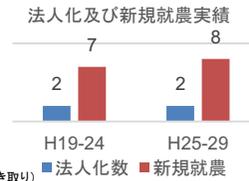
高品質化・高付加価値化へ向けた取組

- スイートコーンの選果に道内初の**X線透過による先端不稔検査装置**を導入し、**品質向上・効率化**を実現。
- 完熟したミニトマトのみを使う「**ミニトマトそのまんまのジュース**」を販売、ふるさと納税の返礼品としても人気。



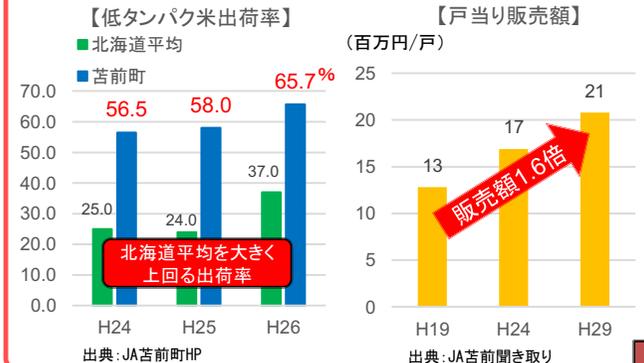
安定的な担い手の確保

- 基盤整備を契機に担い手へ農地が集積され(担い手農地集積率92%)、法人化、新規就農者も増え、**安定的に担い手が確保**されている。



経営規模拡大とブランド化へ向けた取組

- 水稲は**JA苫前産米の高品質米(低タンパク米)**及び**特別栽培米**として**品質向上の取組**が行われており、食味コンクールでは、**3年連続金賞受賞**し、ブランド化による所得向上を図っている。
- 農家(耕種農家)販売額は高収益作物の導入を契機に平成19年と比べ**約1.6倍**となり、水稲に加え、**メロン・ミニトマトの販売額が伸び**ている。



「てっぺん」稚内で酪農経営の安定化を目指す

わっかないし
【北海道稚内市】

【生産者の声】



草地整備により、作業がしやすくなり、栄養価の高い粗飼料ができました。規模拡大により生乳生産量が増加しました。

JA稚内青年部のOさん

【取組地域の概要】

○位置
北海道 稚内市（過疎）



- 主要作物
・牧草
- 主な支援施策
 - ・道営草地整備事業(H19～)
 - ・営農用水事業(H24～)
 - ・農道保全整備事業(H26～)
 - ・国営総合農地防災事業(H28～)
 - ・多面的機能支払交付金(H19～)

基盤

草地の起伏修正等により大型機械作業の効率化

起伏修正を行うことにより、不陸や排水不良が解消され、**ほ場作業の効率化及び適期収穫による良質粗飼料の確保**されるとともに、営農用水の整備で、**家畜用水の安定供給が実現した。**



基盤整備

(H19年～現在)

【整備前】

泥炭土壌や地形条件による排水不良や、農作業機械の大型化に伴う**ほ場の不陸**のため、**機械作業効率の低下、粗飼料の収量及び品質の低下**を招いていた。



生産現場

基盤整備による良質粗飼料の確保

○草地整備改良により**大型機械の導入が可能**となり、適期収穫を行う事が可能となり、**良質粗飼料を確保。**



整備後の草地
単収が約3割増加

加工・流通

「稚内ブランド」で牛乳の美味しさをPR

○JA稚内では、**地元産生乳のみ**を使った**牛乳・乳製品の製造を拡大**。
○中でも**アイスクリーム**は、稚内市の**ふるさと納税の返礼品として人気**を集め、販売数が2倍に急進している。



工場兼直売所

担い手

新規就農者等の確保に向けた取組

○振興局独自事業を活用し、農業系大学で**PRセミナーの開催や酪農体験ツアーで学生を募集**など、**地域の関係機関と連携しながら、積極的なきっかけづくりに取り組んでいる。**
○JA稚内での、**新規就農者は近年3戸(予定者含む)。**

経営規模拡大等による農業所得の向上

- 良質粗飼料の確保や営農作業の効率化により、経営規模拡大を推進。**多頭飼育による生乳生産量が増加。**
- TMRセンターの導入を契機とした、**経営の効率化による増頭**で乳量の増加。
- 「稚内ブランド」の確立にもつながら、**農家の所得向上**に貢献。



【出典：各種表・グラフはJA稚内聴き取り】